

プロフィール（自己PR）

昭和の佇まいがいまだ残り、街を行き交う人々の衣装は多種多様。そんな多様性に富む中野区が大好きです。
米国・英国への留学や国内外での語学教授など、学生時代から異国の地で学び、人々と交流し、多文化理解を深めてきました。加えて、米国出身の夫との日常は、カルチャーショックと気づきの繰り返しです。こういった自身の多様性が愛する中野区のお役に立てばとの思いで立候補させていただきました。

教育委員になった際に取り組む課題（箇条書き）

※優先度の高いものから順に、3項目以内で記入してください。

1.（課題） 伝統工芸や書道など、後継者が減少している日本の伝統文化を 継承していくこと について

その解決方法（箇条書きで簡潔に）

- 一、職人や師範を招き、現状の報告会、交流会を開催する
- 一、区民会館などを活用して区民の体験学習やワークショップを開催する
- 一、有望な人材に投資し育成すべく、助成金の活用を吟味する

2.（課題） について

その解決方法（箇条書きで簡潔に）

3.（課題） について

その解決方法（箇条書きで簡潔に）

教育委員に応募する理由（横書きで記入してください）

近年、日本の教育は、高度経済成長を支える人材を育むためのものから、個性と多様性を重視した人材育成を目指すものへと変化してきた。
現在の国際情勢を鑑みても、教育がその方向へ変化していくことは尤もであり、必須ともいえよう。他方で、それを導く先導者たちも多種多様でなければ、成し得ることは難しいことも明らかである。
このような状況下、学生時代から海外留学やボランティア、その後も国内外で語学教育や海外赴任に同行する機会に恵まれた自身が、この経験を社会に還元し役立てないかと常に感じてきた。だが現実的には、日々の生活に追われ自身の仕事をこなすだけで精一杯だった。
だが、今の夫と出会い、この中野区に引っ越してきて以来、生活環境とスタイルが変化した。自分自身に時間的・経済的・精神的な余裕が生まれた。
この機会に、思い描いてきた「社会の為に自身のできることをやる」願いを実現したく、応募を決意した。